

- 列への転移, 反応時間の分析, およびワイルドカード導入の効果について. 日本心理学会第55回大会. 発表論文集, p. 318.
- 25) 伏見貴夫 (1991) : ニホンザルにおける要求行動の形成と分析: 要求相手に関する般化と分化. 日本動物心理学会第51回大会. 予稿集, P. 33.
- 26) 伏見貴夫・友永雅己・小嶋祥三 (1991) : チンパンジーにおける非音声メディアを用いたコミュニケーション行動の訓練. 第7回日本霊長類学会. 霊長類研究, 7 (2) : 135.
- 27) 佐倉統・伏見貴夫・杉山幸丸 (1991) : 採食パッチ・サイズとチンパンジーの採食戦略. 第7回日本霊長類学会. 霊長類研究, 7 (2) : 161.
- 28) 伏見貴夫・友永雅己・松沢哲郎・小嶋祥三・市田泰弘・大杉豊 (1991) : 霊長類におけるコミュニケーショントレーニング. 日本行動分析学会第9回大会. 発表論文集, pp. 26-27.
- 29) Fushimi, T., Sakura, O. and Sugiyama, Y. (1991) : Nut-cracking behavior of wild chimpanzees (*Pan troglodytes*) in Bossou, Guinea. The 22nd International Ethological Conference. Abstracts, p. 44.
- 30) 伏見貴夫・友永雅己・小嶋祥三 (1991) : チンパンジーにおけるコミュニケーション行動の訓練. 日本心理学会第55回大会. 発表論文集, p. 408.
- 31) 市田泰弘・大杉豊・伏見貴夫・松沢哲郎 (1991) : ヒトとチンパンジーの手話コミュニケーションにおける模倣と表象. 日本心理学会第55回大会. 発表論文集, p. 498.
- 32) 日上耕司・松沢哲郎 (1991) : 競合・協同事態におけるチンパンジーのレバー押し反応. 日本心理学会第55回大会. 発表論文集, p. 317.
- 33) 井上徳子・日上耕司・松沢哲郎・今田寛 (1991) : チンパンジー乳児のストレンジ・シチュエーションにおける行動. 日本動物心理学会第51回大会. 予稿集, p. 34.
- 34) 井上徳子・日上耕司 (1992) : チンパンジー幼児における愛着の研究: 第2子誕生による第1子の行動変化. 日本発達心理学会第3回大会. 発表論文集, p. 141.
- 35) 上野吉一 (1991) : 匂い刺激に対するフサオマキザル (*Cebus apella*) による弁別学習. 日本動物心理学会第51回大会. 予稿集, p.19.
- 36) 上野吉一 (1991) : フサオマキザル (*Cebus apella*) における Urine-washing : 群れ弁別と種弁別. 第7回霊長類学会大会. 霊長類研究, 7 (2) : 154.
- 37) 上野吉一 (1991) : フサオマキザルは匂をどう嗅ぎ分けているか? 匂い弁別学習と匂い嗜好性. 第25回味と匂のシンポジウム. 発表論文集, p. 121-124.
- 38) Ueno, Y. (1991) : Urine-washing and olfactory discrimination in tufted capuchin (*Cebus apella*). The 22nd International Ethological Conference. Abstracts, p. 147.

社会研究部門

加納隆至・大澤秀行・鈴木 晃

研究概要

- 1) 中央アフリカのザイール森林における野生ボノボの研究

加納隆至・エレン＝イングマンソン¹⁾・五百部裕²⁾・橋本千絵²⁾

ザイール共和国ジョル地区ワンバ地方において1973年より行われてきたボノボの社会および行動についての現地調査は, ザイールの政情不安定化により中断した。しかしこれまでに収集された資料のうち下記についてとりまとめた。

イ) 単位集団間関係, ロ) 母親の子に及ぼす社会的影響, ハ) 採食時の利き手, ニ) 知能と道具使用, ホ) 狩猟と肉食, ヘ) オス間関係。

- 2) ウガンダのチンパンジーの予察

加納隆至

1992年3月ウガンダ西南部の7森林においてチンパンジーの密度と食性に関する予備調査を行った。

- 3) 父子判定に基づくニホンザルの繁殖戦略の研究

大澤秀行・光永総子³⁾

生化学研究部門で開発した父子判定の技術を利用し, ニホンザル雄の繁殖効率, および繁殖戦略

1) 外国人研究員 2) 大学院生 3) 研修員

の研究を1987年度より継続して行っている。霊長類研究所の複雄・複雌の若桜放飼グループについて交尾回数、交尾時間、交尾努力、繁殖成功率と交尾個体の年齢・順位の関係を分析している。

- 4) アフリカ地域乾燥サバンナにおけるオナガザルの野外研究

大澤秀行

カメルーン北部のカラマルエ国立公園においてパタスザルとミドリザルの野外研究を1984年より続けている。1991年は繁殖戦略に関する雌雄の行動観察を主として行った。

- 5) オランウータン・テナガザル・テングザル等、東カリマンタンに生息する霊長類の野外調査のまとめと発表

鈴木 晃

1983年から開始したインドネシア東カリマンタンでのオランウータンをはじめとする各種霊長類の野外調査も、すでに9年を経過し、この間の資料のとりまとめと、理論的な枠組みのまとめを試みた。

- 6) 上信越ニホンザルの地域社会学的研究の継続

鈴木 晃

上記の課題の継続的研究調査と、上信越ニホンザル研究林の研究小屋の整備を行った。

- 7) マカク類の比較社会学的生態学的研究
加納隆至・大沢秀行・松村秀一²⁾・
揚妻直樹²⁾・小川秀司²⁾・田中香²⁾

マカク類の社会進化を明らかにするため、ニホンザル(屋久島、高崎山、嵐山、金華山)を中心にその他のアジアのマカク類(中国のチベットモンキー、インドネシアのセレベスマカク)の社会をその各々の生息地で研究している。

- 8) その他の哺乳類の社会行動研究

加納隆至・大沢秀行・

瀬戸口美恵子³⁾・小林隆²⁾

タイワンリスおよび半野生馬について、社会行動の調査を行い、霊長類とは異なる視点からも動物社会学研究を行っている。

総 説

- 1) 鈴木 晃(1991): 孤独な森の哲人・オランウータン・サル学の現在(立花隆著), pp.

319-338, 平凡社.

- 2) 鈴木 晃(1991): カニバリズムがうむ集団興奮・チンパンジー. サル学の現在(立花隆著), pp. 378-428, 平凡社.
3) 鈴木 晃(1992): 夕陽をみつめるチンパンジー. 丸善ライブラリー.

論 文

- 1) Ohsawa, H. (1991): Take-over of a harem and the subsequent promiscuity in patas monkeys. In: *Primate Today*. (eds. by Ehara, A., Kimura, T., Takenaka, O., and Iwamoto, M.), pp. 221-224, Elsevier Science Publishers, Amsterdam.
2) Ohsawa, H., Nakagawa, N., and Muroyama Y. (1991): Social life of paras monkeys at Kala Maloué, northern Cameroon. In: *Primate Today* (eds. by Ehara, A., Kimura, T., Takenaka, O., and Iwamoto, M.), pp. 693-694, Elsevier Science Publishers, Amsterdam.
3) Suzuki, A. (1991): Forest fires' Effects on the population of Primates in Kutai national park, East Kalimantan, Indonesia. In: *Primate Today* (eds. by Ehara, A., Kimura, T., Takenaka, O., and Iwamoto, M.), pp. 51-54, Elsevier Science Publishers, Amsterdam.
4) Ihobe, H. (1991): Male relationships of pygmy chimpanzees of Wamba, Republic of Zaire. In: *Primate Today* (eds. by Ehara, A., Kimura, T., Takenaka, O., and Iwamoto, M.), pp. 231-234, Elsevier Science Publishers, Amsterdam.
5) Inoue M., Mitsunaga, F., Ohsawa, H., Takenaka, A., Sugiyama, Y., Gaspard, S. A., and Takenaka, O. (1991): Male mating behaviour and paternity discrimination by DNA fingerprinting in a Japanese macaque group. *Folia Primatol.*, 56: 202-210.
6) Watanabe, K. and Matsumura, S. (1991): The Borderland Possible Hybrids between Three Species of Macaques, *M. nigra*, *M. nigrescens* and *M. hecki*, in the Northern

1) 外国人研究員 2) 大学院生 3) 研修員

Peninsula of Sulawesi. Primates, 32 : 365-370.

- 7) Watanabe, K., Matsumura, S., Watanabe, T., and Hamada, Y. (1991) : Distribution and possible intergradation between *Macaca tonkeana* and *M. ochreata* at the borderland of the species in Sulawesi. Primates, 32 : 385-389.

報告・その他

- 1) 加納隆至 (1991) : ボノボの集団間関係. 遺伝, 44 : 50-53.
- 2) 鈴木 晃 (1991) : チンパンジーの楽しみ・好奇心・興奮. 多様な行動を支えるもの. 畚れきてる, 41 : 16-23.
- 3) 鈴木 晃 (1991) : オンジュンとデコンーオランウータンの親子一. 幼児開発, 256 : 24-27.

学会発表

- 1) Kano, T. (1991) : The effects of the mother's death on the social relationships of her offspring with other group members. Understanding Chimpanzees : Diversity and survival (Chicago) . 1991年12月11日.
- 2) Kano, T. (1991) : Intergroup relationships in bonobos at Wamba, the central Zaire Basin. The Great Apes Conference, Proceedings of the Conservation of the Great Apes in the New World Order of the Environment, pp. 70-71.
- 3) 大沢秀行 (1991) : 霊長類のサバンナへの進出. 日本環境動物昆虫学会第3回年次大会シンポジウム「熱帯林の減少と動物・昆虫」. 要旨集 p. 16.
- 4) 鈴木 晃 (1991) : 山火事跡地林でのオランウータンの生態と社会. 日本熱帯生態学会第1回大会. 講演要旨集, p. 62.
- 5) 鈴木 晃 (1991) : オランウータンの社会構造における性. 第45回日本人類学会日本民族学会連合大会. 講演要旨, p. 70.
- 6) Suzuki, A. (1991) : Feeding Ecology of Orangutans after the 1983 Forest Fires in East Kalimantan and Comparative

Studies of Social Units of Orangutans and Chimpanzees. The Great Apes Conference, Proceedings of the Conservation of the Great Apes in the New World Order of the Environment.

- 7) 五百部裕 (1991) : 海外における研究活動と自然保護 : ザイール共和国における事例から. 第2回日本環境教育学会大会. 研究発表要旨集, pp. 91-92.
- 8) 五百部裕 (1991) : ザイール共和国ワンバにおける樹上性霊長類の分布と個体数 (予報) . 第28回日本アフリカ学会大会. 研究発表抄録, p. 44.
- 9) 五百部裕 (1991) : 野生ボノボの枝引き行動と社会関係. 第7回日本霊長類学会大会. 霊長類研究, 7 (2) : 162.
- 10) Ihobe, H. and Kano, T. (1991) : Drag branch behavior of wild bonobos (*Pan paniscus*) . The 22nd International Ethological Conference. Abstracts, p. 149.
- 11) Ingmanson, E. (1991) : Tool use among bonobos in the wild and social dimensions of intelligence. Understanding Chimpanzees : Diversity and survival (Chicago) . 1991年12月12日.
- 12) Kobayashi, T. (1991) : Roles of herding behavior in harem reformation in Misaki horses. The 22nd International Ethological Conference, Abstracts, p. 123.
- 13) 橋本千絵 (1991) : 野生ボノボのコドモにおけるベギング行動について. 第7回霊長類学会大会. 霊長類研究, 7 (2) : 161.
- 14) Hashimoto, C. (1991) : Begging behavior of wild juvenile bonobos (*Pan paniscus*) at Wamba, Republic of Zaire. The 22nd International Ethological Conference, Abstracts, p. 149.
- 15) Hashimoto, C. (1991) : Mother/Infant behavior. Understanding Chimpanzees : Diversity and survival. (Chicago) . 1991年12月13日.
- 16) Furuichi, T. and Hashimoto, C. (1991) : Development and change in the social role of bonobo sexual behavior. Understanding Chimpanzees : Diversity and

survival. (Chicago). 1991年12月11日.

- 17) Matsumura, S. (1991) : Contexts and effects of male loud calls of moor macaques. The 22nd International Ethological Conference. Abstracts, p. 147.
- 18) 小川秀司 (1991) : チベットモンキーのブリッジング行動における三者の社会関係. 第7回日本霊長類学会大会. 霊長類研究, 7 (2) : 155.
- 19) Ogawa, H. (1991) : Triadic social relationship in bridging behavior among Tibetan monkeys. The 22nd International Ethological Conference. Abstracts, p. 90.

変異研究部門

庄武孝義・川本 芳

研究概要

1) ニホンザルの集団遺伝学的研究

庄武孝義・川本 芳

ニホンザルの血液蛋白の構造を支配する遺伝子の変異を電気泳動法によって検索し, 群内, 群間の遺伝的変異性を定量する。得られたデータをもとに統計的検討を加えニホンザルの繁殖構造・種分化の解明をめざす。'91年度はニホンザル38地域集団, 計3,409個体の分析結果を集計し, これまでの研究の総括を行った。この内容はニホンザルの集団遺伝学的研究の第3報として公表した。また, 新たに遺伝標識としてミトコンドリアDNA多型を加え, 分析を続行中である。

2) *Macaca*属サルの系統的相互関係

庄武孝義・川本 芳

ニホンザルを含む*Macaca*属サル各種から材料を採集し, 前項1)と同一の方法によって種内・種間の遺伝的変異性を定量化し, それら種間の遺伝的分化・系統的關係を検討している。'91年度はスラウェシマカクの種間雑種の調査を行った。

3) ヒヒ類の種分化に関する集団遺伝学的研究

庄武孝義

'91年度は文部省科学研究費により, 北部エチオピア高原セミエン国立公園周辺でゲラダヒヒの分布調査と捕獲調査を行い, 血液サンプルを持ち帰り, 血液蛋白の遺伝的変異とミトコンドリアDNA多型を検索中である。

4) 家畜化現象と家畜系統史の研究

庄武孝義・川本 芳・鈴木良太¹⁾

在来家畜とそれらの野生原種の野外調査によって, 家畜化現象そのものの集団遺伝学的解明と, 各種家畜の集団間遺伝分化, 系統的相互關係の解明を行いつつある。'91年度は中華人民共和国において雲南省の黄牛, 水牛の調査を行った。また, '92年8月に開かれた動物遺伝学に関する国際会議では, アフリカのN'Dama, Boran, Masai牛の遺伝学的研究の成果を発表した。

5) ドブネズミの集団遺伝学的研究

川本 芳

ドブネズミの野生集団ならびにラットの実験室系統の蛋白変異, ミトコンドリアDNA変異を検索し, ペストアニマルとしてのドブネズミ, 実験動物化されたラットの遺伝的特性を検討しつつある。

総 説

- 1) 庄武孝義・野澤 謙 (1991) : 遺伝的変異からみた哺乳類の集団構造. 現代の哺乳類学 (朝日稔, 川道武男編), pp. 45-64. 朝倉書店, 東京.

論 文

- 1) Shotake, T., Nozawa, K., and Santiapilai, C. (1991) : Genetic variability within and between the troops of toque macaque, *Macaca sinica*, in Sri Lanka. *Primates*, 32 : 283-299.
- 2) Nozawa, K., Shotake, T., Minezawa, M., Kawamoto, Y., Hayasaka, K., Kawamoto, S., and Ito, S. - I. (1991) : Population genetics of Japanese monkeys : III. Ancestry and differentiation of local populations. *Primates*, 32 : 411-435.
- 3) Nishida, T., Hayashi, Y., Shotake, T., Maeda, Y., Yamamoto, Y., Kurosawa, Y., Douge, K., and Hongo, A. (1992) : Morphological identification and ecology of the red jungle fowl in Nepal. *Anim. Sci. Technol. (Jpn.)* 63 : 256-269.
- 4) Tanaka, H., Kawamoto, Y., and Terao,

1) 大学院生